

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

29年 7月 31日

三田市議会議長 平野 菅子 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	日本維新の会	代表者	印 [REDACTED]
	三田市議会議員団	議員名	
派遣者氏名			
視 察 先	北海道小樽市 北海道苫小牧市		
調査事項 (調査目的)	小樽市 「市立病院統合について」 苫小牧市 「まちなか再生総合プロジェクトについて」		
日 時	29年 7月 27日 (木) ～ 29年 7月 28日 (金)		
視察先対応者	小樽市 病院局事務部長 金子 丈夫氏 病院局事務部次長 鉢呂 善宏氏 病院局経営企画課長 鈴木 健介氏 苫小牧市 議会事務局 局長 荒物屋 貢一氏 まちづくり推進課 まちなか再生主幹 武田 涼一氏		
添付資料	・小樽市名刺コピー ・病院の沿革・概要・施設認定等 ・新小樽市立病院改革プラン・小樽市立病院パンフレット ・苫小牧市名刺コピー ・CAP3 事業計画及び実践プログラムについて		

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時	29年 7月 27日 (木)	13時 00分～ 15時 00分
視察先	北海道小樽市	
調査事項	市立病院統合について	
(調査結果の概要及び所見)		
<p>概要：既存の市立小樽病院と小樽市立脳・循環器・こころの医療センターを統合し、平成26年12月に小樽市立病院として開院。市立小樽病院は明治45年7月に株式会社私立小樽病院として設立され昭和3年4月に市立小樽病院となり平成26年11月まで市立病院としてその機能を果たす。また、脳・循環器・こころの医療センターは小樽静和病院、小樽市民病院、小樽長橋病院の4病院が統合、昭和49年8月に市立小樽第二病院として開院され、平成21年6月に小樽市立脳・循環器・こころの医療センターへと名称変更を行う。敷地面積14,882.85㎡、建築面積7,342.61㎡、延床面積30,862.52㎡、地下1階、地上7階建てで、病床数は388床。また屋上にはヘリポートも完備。経営形態の見直しについて、地方独立行政法人化は債務超過状態により、法定設立要件をクリアできず、指定管理者制度の導入は受け皿となる民間医療法人等の有無に加え、職員整理の問題があり、民間譲渡は不採算医療切捨ての可能性が否定できず、地域医療を守る観点から採用し得ないと判断。</p> <p>所見：小樽市においても少子高齢化の影響や、地域医療の課題、医師、看護師不足など、三田市と同様の課題を抱えていた。市立病院堅持のため、二次救急搬送患者、他の医療機関からの紹介患者など、全ての患者を受け入れることを方針とし、最新医療機器導入や救急にも力を入れている。これは地域医療圏域ないで唯一の市であり、ヘリポートも設置されていることからその役割は大きいものと感じた。三田市民病院においてもヘリポートが設置できれば、更に大きな役割が見出せるのではないだろうか。現在、国の指針に基づいて運営されていくことは承知しているが、地方の地域医療の実態と市民ニーズを考えれば、全診療科目、24時間の救急医療体制及び救急搬送など、どのようにすれば整備できるか、経営形態や他病院との統合及び市立堅持による財政負担も含めて、しっかりと市民に説明し、市民病院の在り方について、住民投票などの方法も検討しなくてはいけないと感じた。</p>		

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時	29年 7月 28日 (金)	10時00分～ 13時00分
視察先	北海道苫小牧市	
調査事項	まちなか再生総合プロジェクトについて	
<p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>概要：まちなか再生総合プロジェクトとは、苫小牧市総合計画（第5次基本計画改定版）のまちづくりの目標「活力ある産業と賑わいのまち」を実現するための個別計画の1つであり、人口減少と超高齢社会に対応できる「持続可能なまちづくり」を目指す苫小牧市独自の計画としている。平成23年から「CAP1」、平成26年から「CAP2」とし、平成29年3月末に現在の「CAP3」を策定。まちなか再生の意義・メリットとして「新たなまちの核を整備するよりも、今あるまちなかの機能をしっかりと守り、拡充させることが効率的としている。事業は多岐にわたり、市民ボランティアの人たちにも大きく活躍され、メンバーも増加している。行政の役割として事業には、人のマッチングなどを行い、つかず離れずの一定の距離感をもって、市民ボランティアに接している。</p> <p>所見：苫小牧市のまちなか再生総合プロジェクトでは、一年ごとに検証し修正を行い、事業を進めているとの事。計画に縛られるのではなく、行われた事業の課題を一年単位で修正し、柔軟に対応し事業を盛り上げてきている。このプロジェクトは現市長の重点施策であり、職員の方もプレッシャーを感じながらも、事業を市民の方と行うことには喜びを感じており、業務でもあり趣味のような感じにもなっていると言っておられました。各事業の発想は全て繋がっており、まさしく総合的であり、また、まちの将来ビジョンを俯瞰的に考え描かれた計画だと感じます。一年ごとの修正は、市民ニーズとのタイムラグを埋めることから、市民にとってはしっかりと市がニーズを受止め、市政に反映してくれていると感じ、更にまちづくりに協力しようという、好循環が生まれているように感じます。苫小牧市では商工会議所であり、市政への関わり合いは少ないみたいです。状況の違いを差し引いても、三田市では商工会への依存度が高いように感じます。もっと市民ニーズをダイレクトに受け、苫小牧市と同様に柔軟でかつ、スピーディーな対策を講じれば、市民参加や市政への関心も強まるのでは？このことは三田市でも、十分できると感じました。</p>		

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)